

今月の星空



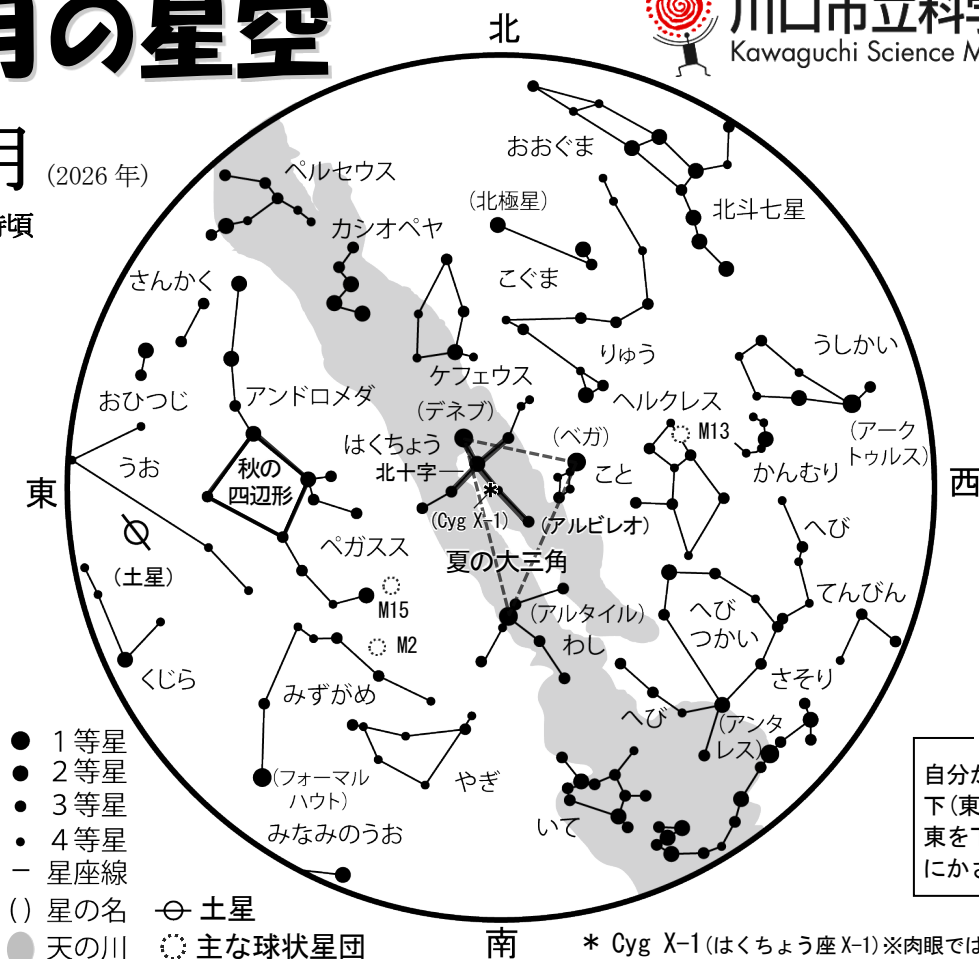
川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

9 月 (2026 年)

中旬 20 時頃



— 星図の見方 —
自分が見ている方角を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

* Cyg X-1 (はくちょう座 X-1) ※肉眼では見えません

月 齢 ① 下弦 4 日、● 新月 11 日、② 上弦 19 日、○ 満月 27 日

惑星情報 金星 日の入り後 西(おとめ座 -5 等) 火星 日の出前 東(ふたご→かに 1 等)

木星 日の出前 東(かに→しし -2 等) 土星 真夜中 南東→南(うお→くじら座 1→0 等)

☆秋の訪れと見頃のはくちょう座

23 日に秋分を迎え、太陽の南中高度は夏至と冬至の中間の約 55 度まで下がります。日暮れも 17 時台と早くなり、季節の移り変わる一方で、宵の星空では、夏の暑さが残るように、夏の星座の見頃が続きます。主役は、はくちょう座。ギリシャ神話の大神ゼウスが変身した白鳥とされ、この時期、天頂付近で天の川の上を飛ぶ姿が想像されます。その星の並びは「北十字」とも呼ばれ、市街地の夜空でもたどれます。この星座にある主な天体は、色の対比の美しい二重星「アルビレオ」や 1970 年代に初めてブラックホール候補天体となった「はくちょう座 X-1」(Cyg X-1/星図参照) などがあります。

東側の空には秋の星座が見つかります。先駆けて見頃となるのは「秋の四辺形」が目印のペガス座とその後を追う土星です。W 型が目印のカシオペヤ座も春から長らく北の空の主役であった北斗七星からその座を譲り受け、秋から冬にかけて見つけやすい時期となります。

☆欠けて輝く金星と満ちて輝く中秋の名月

日の入り後の空で春から夏にかけて「宵の明星」として輝いてきた金星は下旬で見納めです。元々明るい金星ですが、春先の -4.0 等 (1 等星の約 100 倍) から明るさを増し、最大光度となる 19 日頃に -4.8 等 (同約 200 倍) となります。この時期の金星は望遠鏡で観察すると大きく欠けた状態に見えることも特徴のひとつ (右図参照)。11 月以降は、夜明け前の東の空で「明けの明星」として輝き、再び宵の明星が見られるのは、来年の 10 月以降です。今月に金星を見るのであれば、細い月 (月齢 3.2) が近くに見える 14 日がおすすです。

金星が細く欠けていく一方で、月は 11 日の新月 (旧暦 8 月 1 日) 以降、満ちていきます。25 日は旧暦 8 月 15 日にあたり、この日の月は「中秋の名月」(または十五夜) と呼ばれます。月の出は 16 時 42 分、南中時 (22 時 39 分) の高さは約 50 度と見やすい高さに昇ります。また、今回の十五夜は 2 日後に満月となるわずかに欠けた月となります。秋の夜長に名月の美しさを堪能してみませんか?

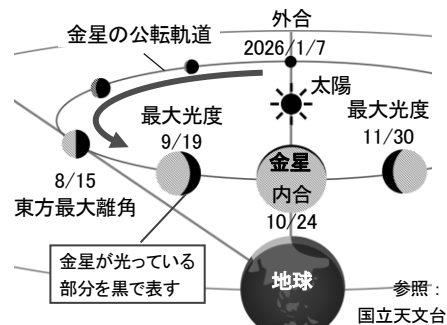


図 地球から見る金星と太陽の位置関係 (金星の満ち欠け)